科目名	デザー	年度	2025						
英語科目名	Design	学期	後期						
学科・学年	デザイン科 グラフィックデザイン専攻 1年次	必/選	必	時間数	60	単位数	2	種別※	実習
担当教員	経 真珠美	教員の実務経験 有 実務経験			食の職種	イラスト	レーター		

【科目の目的】

それぞれの画材、道具の特性を理解し、表現に最適な選択ができる。自身のイラストレーション表現に合った画材、道具の選択 ができる。 描画表現、イラストレーションテクニックの習得。

【科目の概要】

イラストレーション制作実習を通じて、自身が目指す表現に合う画材、道具の選択が出来るよう、様々な画材、道具を体験する。モチーフとなる対象物の特徴を捉え、描き起すテクニックと表現方法を学ぶ。イラストレーターとして必要な制作テクニックと、デザイナーとしても必要なイラストレーションの制作知識を学ぶことを目的と している 。

【到達目標】

- A モチーフのフォルムと彩光を捉えた基本的な描画表現ができる
- B 画材や道具の特性を理解し表現に活用することができる
- C 着彩時に必要な色味の再現と調整が適切にできる

【授業の注意点】

学生間・教員と学生のコミュニケーションと制作プロセスを重視する。授業に出席するだけでなく、制作にあたっては 各自で授業の事前準備と事後のフォローを前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は課題提出とプレゼンテーションの実施ならびに評価を受けることができない。忘れ物厳禁。

評価基準=ルーブリック										
ルーブリック	レベル 5	11個本中一/	レベル3		レベル1					
アーフリック評価	優れている		ふつう		要努力					
到達目標 A	モチーフの存在感を表現 できる。優れた描画表現 ができる		モチーフのフォルムと彩 光を捉えた基本的な描画 表現ができる		基本的な描画表現まで到達していない					
到達目標 B	画材や道具の特性を理解 し活かし表現することが できる		画材や道具の特性を理解 し表現に活用することが できる		画材や道具の特性を理解 できていない					
到達目標 C	色味の再現と調整が優れ 深みを持たせることがで きる		着彩時に必要な色味の再 現と調整が適切にできる		色味の再現と調整ができ ない					

【教科書】

特に使用なし

【参考資料】

毎回授業にて資料配布を行う。参考書・参考資料等は授業中に指示をする。

【成績の評価方法・評価基準】

課題完成度 80% 提出課題の完成度を評価する

平常点 20% 積極的な授業参加度、授業態度、忘れ物によって評価する

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

	科目名			デザイン	実習 1 C	年度	20)2
英語表記		Design Practice 1C						其
可数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標=修得するスキル		評価方法	
授業オリエン テーション			1	イラストの役割の解説	イラストレーションの役割を理解する		,	İ
	授業概要説明	2				_		
	7-292	1XX 180 X 100 7 1	3					
			1	パターン平面構成	平面構成作品の作成 パターンの配色で表現ができ	きる		l
2		水彩色鉛筆の特性を	2	水彩色鉛筆体験	細部の描き込み丁寧な塗りが作品に影響することを	と理解する		
	画技法修得	知る	3					
				モチーフの描画	水彩色鉛筆の特性を活かした描画法を修得する			
3		水彩色鉛筆の特性を	2					
0	画技法修得	知る 	3				_	
				モチーフの描画	水彩色鉛筆の特性を活かした描画法を修得する			1
4		水彩色鉛筆の特性を	2		小がし知事*/刊圧を担かした油画版を移行する		_	
т	画技法修得	知る	3					
				モチーフの描画	水彩絵具と水彩色鉛筆の併用する効果を理解する			
5		水彩絵具の特性を知	2	- / / V/1田四	小が広穴に小が亡如事が			
Э	画技法修得						_	
			3					
	画材の体験と描	描 水彩絵具の特性を知 る		モチーフの描画	水彩絵具と水彩色鉛筆の併用する効果を理解する			
6	6 画技法修得		2				_	
			3					
7 画材の体験と抗 画技法修得	画材の休齢と堪	体験と描 水彩絵具の特性を知 る	1	モチーフの描画	水彩絵具と水彩色鉛筆の併用する効果を理解する		_	
			2					
			3					
	両けの休除し世	ち アクリル絵具の特性 を知る	1	モチーフの描画	アクリル絵具の特性を活かした描画法を修得する			
8	画技法修得		2					
			3					
	両せの体験も世	アクリル絵具の特性	1	モチーフの描画	アクリル絵具の特性を活かした描画法を修得する			
9	画技法修得	を知る	2					
			3					
	711 0 USA 1 H	es but a AA E content.	1	モチーフの描画	アクリル絵具の特性を活かした描画法を修得する			
10 画材の体験と		描 アクリル絵具の特性 を知る	2					
			3					
			1	コラージュ作品制作	材料からインスピレーションを受けることを理解す	トる		
11	イラスト表現技 法と画材の選択	コラージュ作品を制 作する	2					
			3					
		現技 コラージュ作品を描 選択 き起こす	1	コラージュ作品描起し	目指す表現に適する画材を選択し効果を検証する。			
12	イラスト表現技 法と画材の選択		2					
14 C 四			3					
	イラスト表現技 法と画材の選択	見技 コラージュ作品を描 選択 き起こす	1	コラージュ作品描起し	目指す表現に適する画材を選択し効果を確認する。			
13			2					
			3					
14	イラスト表現技	創作イラストレー		自由制作	画材を選択し独自の表現を研究、修得を目指す。			
14	法と画材の選択		3					
				自由制作	画材を選択し独自の表現を研究、修得を目指す。			ļ
	イラスト表現技	創作イラストレー			1		1	

15	法と画材の選択	ション	2			
			3			
評価	5方法:1. 提出課題、	2. パフォーマンス評価	3.	その他		

自己評価:S:とてもよくできた、A:よくできた、B:できた、C:少しできなかった、D:まったくできなかった

備考 等